

## 大切なメッセーヂ

中 三

あなたにとって「大切なこと」とは何ですか。「大切なこと」と聞いて、何を思い浮かべますか。

私には、いつも笑顔で、明るい祖父がいました。そんな祖父は人に厳しい人でした。しかしそれ以上に、自分に厳しい人でした。何事にも真つすぐで一生懸命な祖父が私は大好きでした。

祖父は四年前、私が小学六年生のとき病にかかり、入院生活を送っていました。最初はいつものように明るい祖父でしたが、次第に体が上手く動かせなくなり、食べることも難しくなりました。ついには自分で呼吸をすることさえも難しくなりました。それは、「命のタイムリミット」を意味していました。そして、ある日の夜、

「もう、長くないみたい。」

母が一言、そう言いました。その言葉を聞いたとき、私はある言葉を思い出していました。それは、「病気なんてすぐに治してやる」です。この言葉は、まだ祖父が会話ができていたときに、力強く

言っていた口癖のような言葉です。その言葉を思い出したとき初めて、「なぜ祖父だったのだろう」と強く思いました。しかし、その疑問に答えなんて無かったのです。それから数日後、祖父は静かに息をひきとりました。お葬式では、棺の中に入った祖父を、涙ぐんだ顔で囲むようにして、みんなが見ていました。その姿を見て私は一人、あることを思い出していました。それは、祖父がまだ会話ができていたときにポロリと、

「ありがとう。」

と小さくつぶやいたことです。祖父は不器用な性格だったため、自分の思いを素直に伝えるのが下手でした。そんな祖父が小さくつぶやいた「ありがとう」という言葉に、どんな思いが隠されていたのか、私には分かりませんでした。でも、少しだけ分かったような気がしました。「いつも来てくれてありがとう。病気になってこんな姿になってしまった自分を、ここまで支えてくれてありがとう。」そう言いたかったのではないかと思いました。人が人を支えるということは見えないけれど、こんなにも人の心を動かすものなのだと思ふことができました。思い返してみれば、私自

身も、いつだって家族・友人に支えられてきました。苦しいとき、つらいときに温かく見守ってくれる家族、隣でそっと寄り添い、手をとって一緒に遊んでくれる友人。「支える」ということは決して当たり前ではなく、「奇跡」なのだと思います。そんな大切なことに気付かせてくれた祖父に、私はとても感謝しています。

これは、最近、私が母から聞いたことですが、祖父は生前、近所の人に、

「目が見えないのによく生きてられるね。」と、言われたそうです。

祖父は若いときから両目が見えず、たくさんの人に助けられながら生きてきました。祖父自身も周りの人に手を借りながらも、目が見えないということを言い訳にせず、周りの人と同じように生活を送っていました。祖父の姿を知っていた私は、そのようなことを言われたと知って、とても悲しく、そして悔しかったです。その言葉をどんな気持ちで聞いていたのかを考えると、胸が痛いのです。私の祖父は周りの人と何も変わらない人です。ただ、目が見えないだけです。たったそれだけなのに、そのようなことを言われるなんて、おかし

と思います。人間だれにも、それぞれ違いがあると思います。しかしその「違い」は「個性」だと思います。お互いがお互いの「個性」を認め合い、理解することが大切なのだと感じました。そして、それができたときに初めて、「支え合う」という関係が築けるのだと思います。

最後に、私はあなたへ伝えたいことがあります。それは、「周りの人の大切さ」ということです。もしあなたが、何かに困っているとき、苦しいとき、一度立ち止まって横を見てください。きっとあなたの横でそっと寄り添い、手を差し伸べてくれる人がいるはずです。きっといます。そのことに気付けたのならば、その人がいることを決して当たり前だと思わず、その人との出会いに感謝してください。きっとその出会いは、あなたにとってかけがえのない出会いとなり、かけがえのない存在になることでしょう。

私は、今日も明日も、これから、天国にいる祖父へ伝え続けます。「おじいちゃん、おじいちゃんのおかげで数々の大切なことに気付くことができたよ。私に大切なことを教えてくれて、ありがとう。」と。